

## 2025 年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

### 1 活動概要

活動団体名	「特別テーマ実践科目 C/D」 & 「特別テーマ研究科目 A/B」 & 「明治大学「道の駅」研究所」
活動テーマ	地域観光の振興と観光商品の提案
活動期間	2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日
主な活動場所	神奈川県三浦市、千葉県南房総市、神崎町、東金市、香取市、旭市
連携地域 連携団体等	三浦市役所経済部、三浦ブルワリー、神奈川県立三浦初声高等学校都市農業科、明治大学「道の駅」研究所、道の駅「発酵の里こうざき」、「水の郷さわら」、「季楽里あさひ」、「みのりの郷 東金」、「とみうら枇杷倶楽部」「三芳村 雛の里」、「ちくら 潮風王国」
活動者数	43 名（教員 1 名、学生 42 名） ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

## 2 活動内容 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的(地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。)

### 1. 地域が抱える課題：

過年度(2023年度)は4回の現地での調査実習により、現地の方々との交流を図り、より実質的な地域課題の把握をすることができた。今年度は2024年度は、活動テーマを「地域観光の振興と観光商品の提案」として、引き続き観光振興政策の提案と観光客に魅力的な観光商品の開発を通して、より実践的な地域連携活動を実施した。

活動主体については、2023年度の対象科目「特別テーマ実践科目C/D(三浦市)」(於：明治大学駿河台キャンパス、担当：松尾)に、「特別テーマ実践科目D(南房総市)」(於：明治大学駿河台キャンパス、担当：松尾)及び「地域活性化システム論B」(於：明治大学駿河台キャンパス、担当：松尾)、そして2024年度から新設された「特別テーマ研究科目A/B」(於：同和泉キャンパス、担当：松尾)を加え、クラス横断的な合同グループによる地域連携活動を実施した。さらに、明治大学「道の駅」研究所に所属する15名の研究員の先生方のご協力をいただき、両クラスにおける地域連携活動をサポートした。

活動計画(活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について記入してください。)

### 1. 三浦市役所(経済部 石川博英部長、渡辺聡子課長)

2023年度に引き続き、三浦市内の商店会との連絡・連携の推進。学生の提案したプロジェクトの実現のためのプロモーション。

### 2. 株式会社ちば南房総(相談役加藤 文男氏)

千葉県南房総市内の「道の駅」(「とみうら枇杷倶楽部」、「おおつの里花倶楽部」、「富楽里とみやま」、「三芳村鄙の里」、「和田浦WA・0!」、「ローズマリー公園」、「白浜野島崎」、「ちくら潮風王国」の8駅)の連携、情報交換による実習実践授業の実施準備。

### 3. 明治大学商学部「特別テーマ実践科目C/D(三浦市)」(担当：松尾)

アクティブラーニングの手法により、2023年度に引き続き、現地を訪れ、地元住民との交流を通して、新規事業の提案・実践を行なう。

### 4. 明治大学商学部「特別テーマ実践科目D(南房総市)」(担当：松尾)

アクティブラーニングの手法により千葉県南房総市内の「道の駅」を訪れ、地元住民との交流を通して、新規事業の提案・実践を行なう。

### 5. 明治大学商学部「特別テーマ研究科目A/B(社会調査法)」(担当：松尾)

千葉県内の道の駅30駅に対する調査票によるアンケート調査を実施するための調査票の作成。実際に千葉県内の「道の駅」を訪れ、各駅の活性化の取り組みを調査することで、実態を表す指標を見出し、調査票作成を行なう。

### 6. 明治大学商学部「地域活性化システム論B」

地域活性化の取り組みの事例を挙げ、そこから人口減少、高齢化などの地域が直面する課題を解決するための普遍的なシステムを考える。クラスを8つのグループに分け、1時間の講義の後で、授業で取り上げた事例について、グループディスカッションを行ない課題解決に向けた方策をプレゼ

ンテーションする。実際に、地域課題の解決に取り組んでいる非営利活動法人（NPO）で活動している若者をゲストスピーカーとして招聘し、体験を語ってもらうという特別講義を設ける。今年度は、昨年度本講義を履修し、卒業された太田芽衣氏（NPO SET 所属）と、本学商学部の学生として勉学に励むとともに、足立区商店街にある子どもたちの居場所づくりに取り組む NPO で地域活動に取り組んでいる林滯美氏に、地域でのまちづくり活動について講義をしていただき、地元住民の立場から地域を活性化する方策について皆で議論する。

7. 明治大学特定課題研究ユニット「明治大学「道の駅」研究所」（研究ユニット長：松尾）

2023 年度に引き続き、本研究所の客員研究員（一般財団法人日本みち研究所、全国「道の駅」連絡会、八千代エンジニアリング株式会社、汎太平洋東南アジア夫人協会）と協力して、「道の駅」による地域活性化の取り組みの実態調査に対する助言を行なうと共に、道の駅に対する調査依頼を行なう。

## 活動スケジュール

### 1. 申請前活動スケジュール

#### 1) 特別テーマ実践科目 C（三浦市・基礎編）

- (1) 4 月 19 日（金）特別講義（ゲストスピーカー：三浦市経済部 渡辺聡子課長）
- (2) 5 月 19 日（日）三浦市における調査実習（春学期第 1 回）
- (3) 6 月 9 日（日）三浦市における調査実習（春学期第 2 回）
- (4) 6 月 14 日（金）特別講義（ゲストスピーカー：三浦ブルワリー社長 小松哲也氏）

#### 2) 特別テーマ研究科目 A（社会調査法）

- (5) 7 月 14 日（日）三浦市における調査実習
- (6) 7 月 22 日（月）合同報告会

#### 3) 特別テーマ実践科目 D（三浦市・応用編）

- (7) 9 月 19 日（木）「特別テーマ実践科目 D（三浦市）」秋学期授業の打ち合わせ
- (8) 10 月 9 日（水）特別講義（ゲストスピーカー：三浦初声高校初声高校教諭 古屋 唯生氏）
- (9) 10 月 12 日（土）三浦市における調査実習（秋学期第 1 回）
- (10) 11 月 9 日（土）三浦市における調査実習（秋学期第 2 回）
- (11) 12 月 8 日（日）三浦市における調査実習（秋学期第 3 回）
- (12) 2025 年 1 月 8 日（水）2 限 成果報告会

#### 4) 特別テーマ実践科目 D（南房総市）

- (13) 10 月 27 日（日）南房総市における調査実習（秋学期第 1 回）
- (14) 11 月 16 日（土）南房総市における調査実習（秋学期第 2 回）
- (15) 2025 年 1 月 8 日（水）3 限 成果報告会

## 5) 地域活性化システム論 B

(16) 11月18日(月)「地域活性化システム論 B」特別講義

## 6) 特別テーマ研究科目 B (社会調査法)

(17) 11月23日(日)千葉県内の「道の駅」における調査実習

## 活動成果

1) 昨 2023 年度は「特別テーマ実践科目 C/D (三浦市)」において三浦市地域を中心として、現地調査実習、特別講師の招聘講義、研究会の開催、及び成果物の出版を通して、地域活性化に関する実習実践授業を展開した。今 2024 年度は、昨年度に引き続き、三浦市での地域活性化の取り組みに関する調査実習を行うと共に、同地域で、新たな観光商品の開発を試みた。さらに、2 つの実習実践授業「特別テーマ実践科目 D (南房総市)」及び「特別テーマ研究科目 A/B (社会調査法)」と共同で、学生と共に、地域における調査実習を実施した。さらに座学である「地域活性化システム論 B」において、NPO で地域活動に取り組んでいるゲストスピーカーによる特別講義を行なった。

主な内容は以下のとおりである。

(1) 4月19日(金)「特別テーマ実践科目 C (三浦市)」特別講義

- ・ゲストスピーカー：三浦市経済部 渡辺聡子課長
- ・講義内容：三浦市のシティセールスの取り組み：基幹産業としての三浦市観光業の課題
- ・講義場所：明治大学駿河台キャンパス リバティータワー 1085 教室

(2) 5月19日(日)「特別テーマ実践科目 C (三浦市)」三浦市における調査実習(春学期第1回)

- ・調査内容：三浦市の現状と地域課題の把握。
- ・調査方法：参与観察。三浦市に伝わる道寸祭に「諸役」として、伝統のある地元の祭事に参加した(図 2-1、図 2-2)。
- ・調査場所：三浦市荒井浜海岸



写真1 諸役の装束を着て「道寸祭」に参加した様子



写真2 「道寸祭」のポスター

資料：三浦市観光協会 HP

(3) 6月9日(日)「特別テーマ実践科目C(三浦市)」三浦市における調査実習(春学期第2回)

・調査内容：

(a) 三浦市三崎港周辺の商店街の街歩き体験と各商店に対する聞き取り調査(「三浦ブルワリー」「海南神社」、「Caba Coffee」、「カフェ3204」)を実施した。

(b) 「三浦ブルワリーにおけるまちづくりの取り組みと地産地消の商品生産に関する工場見学と聞き取り調査 (<https://miura-brewery.com>)

・調査方法：工場見学及びインタビュー調査

・調査場所：三浦市三崎港商店街



写真3 「三浦ブルワリー」での調査実習の様子

(4) 6月14日(金)「特別テーマ実践科目C(三浦市)」特別講義(ゲストスピーカー：三浦ブルワリー社長小松哲也氏)

・講義内容：「三浦ブルワリー」の設立と三浦市のまちづくりの取り組み(フィールドワーク振り返り)

・講義場所：明治大学駿河台キャンパス リバティータワー 1085 教室

(5) 7月14日(日)「特別テーマ研究科目A(社会調査法)」三浦市における調査実習(春学期第1回)

・調査内容：三浦市での、観光と人口に関する調査票調査

・調査方法：調査票によるアンケート調査及びインタビュー調査

・調査場所：京急三崎駅駅前及び三崎港商店街



写真4 京急三崎口駅前での調査票調査の様子

(6) 7月22日(月)「特別テーマ研究科目A(社会調査法)」及び「特別テーマ実践科目C」合同報告会

- ・報告内容:「特別テーマ研究科目A」と「特別テーマ実践科目C」の春学期の成果報告
- ・外部専門家委員:渡辺 聡子氏(三浦市経済部課長)・加藤文男氏株式会社(ちば南房総相談役)・勝田雄介氏(八千代エンジニアリング海外事業部プロジェクトマネージャー)
- ・開催場所:明治大学和泉キャンパス 第1校舎202教室



写真5 成果報告会の様子

(7) 9月19日(木)「特別テーマ実践科目D(三浦市)」秋学期授業の打ち合わせ

会議内容:「特別テーマ実践科目D(三浦市)」秋学期授業運営に関する打ち合わせ

参加メンバー3名:古屋唯生氏(神奈川県立初声高校 教諭)、初瀬川岳史(明治大学商学部4回生)、松尾

会議場所:神奈川県立三浦初声高校入江キャンパス

(8) 10月9日(水)「特別テーマ実践科目D(三浦市)」特別講義(ゲストスピーカー:神奈川県立三浦初声高校古屋唯生教諭)

・講義内容:神奈川県立三浦初声高校初声高校「地域国際交流同好会」の取り組みと地域との関わりについて

・講義場所:明治大学駿河台キャンパスリパティータワー8F 1083教室

(9) 10月12日(土)「特別テーマ実践科目D(三浦市)」調査実習(秋学期第1回)

・実習内容:ニホンミツバチから採取するはちみつの収穫体験と地元の「養蜂クラブ」の皆様との交流

・実施場所:神奈川県立三浦初声高校和田キャンパス



写真6 ニホンミツバチから採取するはちみつの収穫体験の様子

(10) 10月27日(日)「特別テーマ実践科目D(南房総市)」調査実習(秋学期第1回)

- ・調査内容：道の駅「とみうら枇杷倶楽部」、「三芳村 鄙の里」を対象とした「南房総市内道の駅ネットワーク」の取り組みに関する調査実習
- ・調査方法：調査票によるアンケート調査及びインタビュー調査
- ・調査場所：道の駅「とみうら枇杷倶楽部」、道の駅「三芳村 鄙の里」



写真7 調査実習の様子(道の駅「三芳村 鄙の里」にて)

(11) 11月3日(日)～11月10日(日)「特別テーマ実践科目D(三浦市)」の活動報告

- ・報告内容：明大祭開催に合わせて、三浦市での観光新商品「はちみつクッキー」の企画内容に関するポスター展示
- ・掲示場所：明治大学和泉キャンパス第1校舎前、京急御崎口駅前



写真8 ポスター展示の様子（和泉キャンパス第1校舎前（左）と京急三崎口駅前（右）にて）



写真9 はちみつプロジェクトの活動内容を記したポスター

(12) 11月9日（土）「特別テーマ実践科目D（三浦市）」調査実習（秋学期 第2回）

- ・実習内容：ニホンミツバチから採取したはちみつを使った地域特産品「はちみつクッキー」の試作と来年度に向けた新しい巣箱の設置
- ・実施場所：神奈川県立三浦初声高等学校 入江キャンパス



写真10 はちみつクッキーの試作の様子

(13) 11月16日(土)「特別テーマ実践科目D(南房総市)」調査実習(秋学期第2回)

- ・調査内容: 道の駅「ちくら潮風王国」による南房総市内道の駅ネットワークによる地域活性化の取り組みに関する調査実習
- ・調査方法: 調査票によるアンケート調査及びインタビュー調査
- ・調査場所: 道の駅「ちくら潮風王国」



写真 11 調査実習の様子(道の駅「ちくら潮風王国」にて)

(14) 11月18日(月)「地域活性化システム論B」特別講義

- ・ゲストスピーカー: ①特定非営利活動法人 Chance For All (CFA) 学生チーム 林滯美氏(本学商学部3年)  
②特定非営利活動本陣 SET 太田芽衣氏(2023年本学商学部卒業)
- ・講義内容: 地域NPO活動の取り組みについて  
(ア) 東京都足立区の学童教育の活動について  
(イ) 岩手県陸前高田市での震災復興活動について
- ・講義場所: 明治大学駿河台キャンパスリパティータワー12F 1123教室

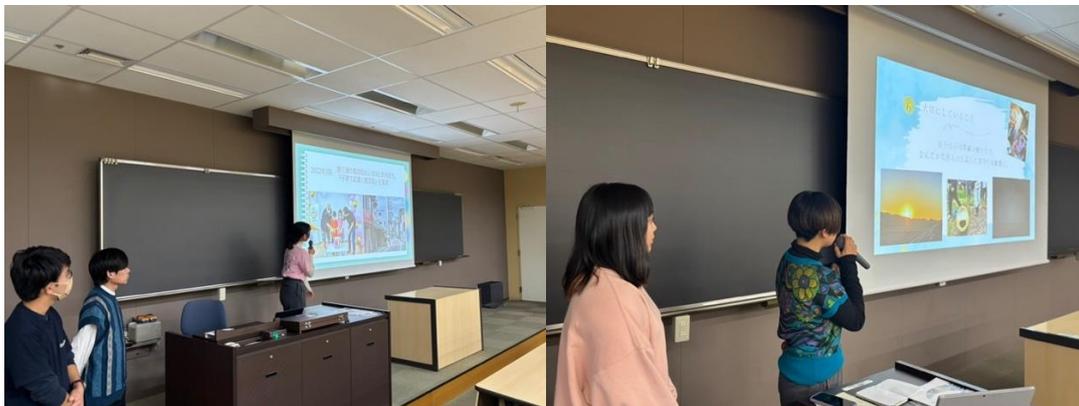


写真 12 NPO CFA 学生チーム林様(左)、NPO SET 太田様(左)の講義の様子

(15) 11月23日(日)「特別テーマ研究科目B(社会調査法)」調査実習(秋学期 第1回)

- ・調査内容:千葉県内の「道の駅」4駅に対する地域活性化の取り組みに関する調査実習のためのバスツアー(商学部の現場 (<https://meiji-commerce.jp/2025/01/21/ab-1.html>) に掲載)
- ・調査方法:調査票によるアンケート調査及びインタビュー調査
- ・調査場所(調査対象の「道の駅」:時間):
  - ① 道の駅「発酵の里こうざき」:10:30-11:30
  - ② 道の駅「水の郷 さわら」:12:00-13:30
  - ③ 道の駅「季楽里あさひ」:14:30-5:00
  - ④ 道の駅「みのりの郷 東金」:16:00-17:00



写真13 道の駅「水の郷 さわら」にて

中央が吉田 玄 支配人



写真14 道の駅「みのりの郷 東金」内山 大史 駅長(左)による説明会の様子

(16) 12月8日(日)「特別テーマ実践科目D(三浦市)」調査実習(秋学期 第3回)

- ・調査内容:ニホンミツバチから採取したはちみつを使った地域特産品「はちみつクッキー」の地域住民と観光客に対する反応調査
- ・調査方法:対面販売を通しての聞き取り調査
- ・調査場所:三崎観光株式会社のテナント(三崎口駅前)



写真 14 販売所での対面販売の様子（京急三崎口駅前「三崎観光株式会社」販売所にて）

(17) 2025年1月8日（水）2限 「特別テーマ実践科目D（三浦市）」成果報告会

- ・報告内容：特別テーマ実践科目D（三浦市・応用編）における秋学期の成果報告
- ・外部専門家委員：渡辺 聡子氏（三浦市経済部課長）・柴田 和義氏（三崎観光株式会社常務）
- ・開催場所：明治大学駿河台キャンパス 12号館 2041メディア教室

(18) 2025年1月8日（水）3限 「特別テーマ実践科目D（南房総市）」成果報告会

- ・報告内容：特別テーマ実践科目D（三浦市・応用編）における秋学期の成果報告
- ・外部専門家委員：鹿野和子氏（NGO 汎太平洋東南アジア婦人協会 副会長）・加藤文男氏（株式会社ちば南房総 相談役）
- ・開催場所：明治大学駿河台キャンパス 12号館 2052メディア教室

(19) 2025年3月：「特別テーマ実践科目D」秋学期成果報告書ディスカッションペーパーの出版（日本NPO学会、3月初旬に出版の予定）

(20) 2025年3月：活動報告書「地域のチカラ第2号」のパンフレットの出版・配布（500部）（3月中旬に出版の予定）

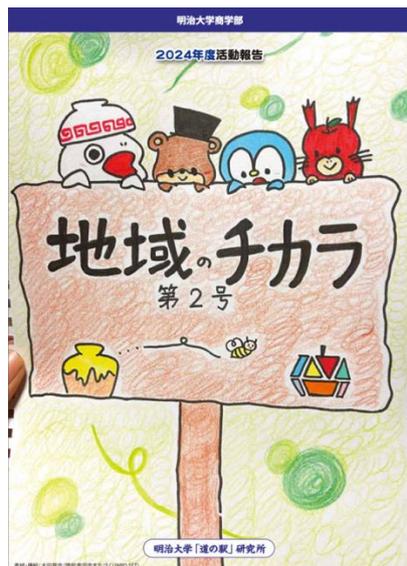


写真 15 地域のチカラ第2号の表紙

2024年度は、2023年度に引き続き地域活性化の取り組みに関するPBL型アクティブラーニングによる実習実践授業を実施した。

2024年度の地域連携活動は、より実践的な活動につなげるため、活動主体について、2023年度の対象科目「特別テーマ実践科目C/D(三浦市)」(於:駿河台キャンパス、担当:松尾)に、「特別テーマ実践科目D(南房総市)」(於:駿河台キャンパス、担当:松尾)、「特別テーマ研究科目A/B」(於:和泉キャンパス、担当:松尾)、「地域活性化システム論B」(於:駿河台キャンパス、担当:松尾)を加えることにより、インタビュー、参与観察などフィールドワークを目的とした科目に、調査票による社会調査、データ分析を実施する科目、さらに座学が加わることで、より実践的な政策提言と事業展開ができたと思う。

具体的には、三浦市への現地調査実習(計5回)と、南房総市への現地調査実習(2回)、教員による調整のための出張(2回)、ゲストスピーカーによる特別講義(1回)、そして学生15名が参加した千葉県内の「道の駅」へのバスツアーを実施した。その成果を、ディスカッションペーパー1篇と成果報告書パンフレット1冊(500部発行)に取りまとめた。

各授業における成果は以下のとおりである。

- ① 「特別テーマ実践科目C/D(三浦市)」:昨年度に引き続き、三浦市の現状を調査し、地域の抱える課題を把握することで、課題に対する解決策の提案を試みた。今年度は特に、秋学期において、地域の観光振興を後押しする三浦市の独自の地域特産品として、「はちみつクッキー」という新たな観光商品の開発に、神奈川県立三浦初声高校都市農業科と共同で取り組んだ。現在は生産量が激減し、非常に珍しい「ニホンミツバチ」から採取するはちみつを利用した「はちみつクッキー」を、都市農業科農業クラブ(担当:古屋唯生教諭)と共同で開発した。今年度は、試作品の制作まで行うことができ、三浦市にある三崎観光株式会社の後援で、同社の販売所において、訪れる消費者の方々に紹介することができた。ただし、今年度のはちみつの収穫量は1リットルと僅かであり、商品化に必要な量が確保できなかったことから、古屋教諭のご協力で、来年度に向けて新たな巣箱を3個設置し、商品化に必要な生産量を目指す体制を整えることができた。
- ② 「特別テーマ実践科目D(南房総市)」:南房総市内には、1つの自治体が有する「道の駅」数では全国最大数の8つの「道の駅」があり、互いに情報共有と商品の融通などの役割分担を行なうことで、強力なネットワークによる地域全体の活性化に繋がっている。7駅を運営する株式会社らば南房総相談役の加藤 文男氏の全面協力のもとで、学生による2回の調査実習を行なった。調査は、調査票を利用したアンケート調査と聞き取り調査の両方の方法で実施し、2回の調査実習で学生に多くの気づきを与えることができた。
- ③ 「特別テーマ研究科目A/B(社会調査法)」:社会調査の方法の実践的方法を学ぶために、千葉県内「道の駅」全30駅に対する調査票によるアンケート調査を実施した。調査票の作成にあたり、実際に千葉県内の「道の駅」4駅を巡るバスツアーを実施し、15名の学生が参加した。学生の指導のために、明治大学「道の駅」研究所から5名の研究員の先生方も同行し、多くの知見が得られた。
- ④ 「地域活性化システム論B」:地域に密着した活動を行なっているNPOに所属している本学の学生と卒業生をゲストスピーカーとして呼び、地域を守る活動について、実践者の立場で抗議していただいた。NPOの趣旨は、それぞれ学童教育と地域防災であったが、両団体に共通することは、地域に対する郷土愛が非常に強いことであると感じた。

一連の活動を通して、学生と共に、地域活性化というテーマに関する現状を把握し、課題に対するより深い解決策を提案することができた。昨年度、本プログラムでの多くの経験を活かして、卒業後に陸前高田市のNPOで活動する道に進んだ太田芽衣氏による特別講義は、今後、地域に携わりたいと希望する学生にとって、大きな励みとなったと思う。さらに、本活動助成金を活用することで、明治大学と覚書を結んでいる神奈川県三浦市での、「三浦はちみつクッキー」という新たな観光商品の開発の出現が確実なものとなり、来年度に向けて更なる進展を志したいと考える。さらに本助成金により、千葉県の房総半島の「道の駅」に学生を引率するバスツアーを企画することができた。今後は、東京湾を囲む「三浦半島」と「房総半島」の連携を視野に入れて、本地域連携活動を継続・発展していくことを目指したい。

授業を学生に提供することができたことに対して、感謝に絶えません。この助成金でスタートすることができた地域との連携を、今後も継続することで、より充実した地域活性化のアクティブラーニング授業を続けていきたいと考えます。改めまして、本助成金の提供に対する感謝いたします。